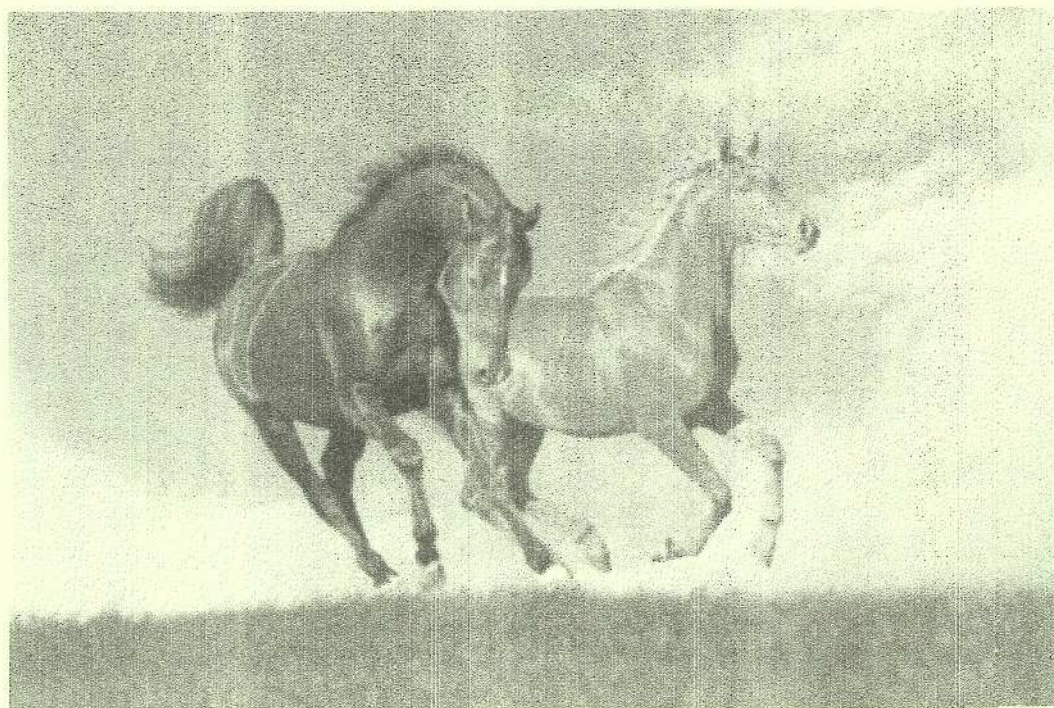


料金後納
郵便

ゆうメール

やまもり通信

NO. 259 2026.1 NPO法人恵那山みどりの会



本年は午年 皆さんが躍動する年になりますように！

2026年は1月13日(火)より事務所を開所します。

広報誌・ホームページ編集をお手伝いいただける方募集しています！

リニューアルホームページ

恵那山みどりの会

検索



<https://takaminecloud.mizunoinfo.com/4DCGI/MID2/>

新年を迎えて

理事長 河内龍二

新年おめでとうございます。
会員の皆様には良いお正月をお迎えになったこととお喜び申し上げます。

昨年の漢字は「熊」が1位、「米」が2位となりました。毎年のように厳しくなる自然環境と生活を反映した漢字となりました。

『熊』の出没件数、被害も過去最大となり、近隣でも出没したという話が出たりします。前回の「森の風」にも言及しましたが、里山の復旧が一刻も早くすることが望まれますが、一旦無くなったものを元に戻すのは何倍も時間がかかります。それは背景に地域の過疎化、高齢化という社会課題があり、一朝一夕には解決できる問題ではありません。

おそらくこれから里山が無くなっていくことは進むでしょう。一方、熊も生きていくには、食べ物

を求めて集落に出没することやめない可能性があります。

人間界と動物界の棲み分けをどうすれば良いのか真剣に考える時期にきています。今、人間の知恵が試されるときです。

また、「米」騒動？も日本の食文化と、コメ政策の矛盾の現れでした。減反政策の中、気候変動で収穫予測を誤り、市場には需要を下回る量しか出回らなかったことでコメ不足の事態が起きました。時の政府は備蓄米の放出で市場に米を大量に供給しようとしたが、米の流通網の欠陥が裏目となり、なかなか市場には出てきませんでしたね。このことで、生産者の窮状が表に出て、農業生産者の苦勞も理解できる事となりましたが、新米が出回るころには米価も下がるという期待は裏切られ、米の買取価格が大幅に上げられ、市場には高い新米が出回り、備蓄米の出遅れが米価の押し下げまでには効果が余り出ないまま、次期政権では

増産方針から需給のバランスを重視するという政策で、増産方針を覆すことになり、市場は混乱することになりました。農業政策の混乱に国民も生産者も翻弄されています。

今年は丙午年。丙午（ひのえうま）の年は、「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年になると考えられます。閉塞感のある現在、今こそみんなが知恵を出し合い、前に進むことで活路を見つけなければなりません。

ある朝の番組で、シンクタンクのグストが国の予算について、限られた税収の中で取り合いをしても必ず、功罪が発生する。視点を变えて、企業、自治体が新しい視点で活性化を考える時が来ている。その努力と人材を育成する必要があると解説していました。

発想を変え「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年になるよう頑張りましょう！

本年もよろしく願います。

森づくりだより

早川宏之

駒場 庭木伐採

十月二十三日（木） 三名

以前、頂部と枝を切ってもらった入り口の松が枯れてきたので切りたい。との依頼であった。

確認すると、3m程で頂部を止められた三十cm程の松で、枯れ枝が落ちていた。ついでに道路側に伸びている桜の枝、家の屋根側に出ているミズキも二股箇所切ってほしいということになった。

ミズキは二股箇所十五cm程でそこから五m程ある。上部から順に切り落とすこととした。

まずは枯松にロープを取り付け慎重に寝かした。桜の枝も幹から出ている箇所切りとし処理した。

最後にミズキの枝を切り落としながら登り、二度に分けて二股箇所切りとし、昼前に終了した。

暑い時期休んでいた作業再開にあた

って、適当な作業であった。

高山 薪炭材調達作業

十一月十日（月） 五名

十一日（火） 十二日（水）各四名

十日（月）は、「もりづくり・間伐体験会」で伐倒し、かかり木としたまま放置していたヒノキの処理を午前中行い、午後より高山へ移動し、作業範囲を確認後、柴刈り作業を実施した。

二日目、前日残した柴刈りと、薪炭材伐倒作業の支障となる低木の伐採作業を行なった。

三日目、傾斜地上部で隣接の田んぼとの境に立っている、六十cm程のアベマキの伐倒に取掛った。

隣接の田んぼ上部に枝が数本伸びているので、チルホールを二台使い斜面下部方向へ寝かすべく受口を入れ、追いつ口を慎重に入れて伐倒したが、二台のチルホールの取り込み指示を最後に間違え、ほぼ真横に倒れ枝が田んぼ内に入り、処理に苦勞した。

十一月十九日（水） 三名

二十日 四名 二十一日 三名

十二日に伐倒したアベマキの枝払い玉切り処理行い、二本目の伐倒に取掛った。これは一本目と違い、斜面下部方向に枝が出ているため、斜め横方向に寝かすべく受口追いつ口を入れたが、ツルの残し方が悪く下に向いて倒れ、農道に枝、枯れ葉が散乱してしまい、農道の通行に支障出た。

農道上の枝、枯れ葉の処理を行いこの日の作業を終了した。

二日目、農道上に集めた枯れ葉の処理、斜面上に寝ている箇所枝払い、玉切り作業を行なったが、太い幹・枝は簡単にはできず、翌日に持ち越しとなった。

三日目、前日の続きで、玉切り、枝払いに午前中掛かった。

午後、今までと比較し少し細いアベマキを二本、斜面上に計画通り寝かして今回の作業を終了した。

十二月一日（月） 二日（火）

三日（水） 各四名

まず前回伐倒材の玉切り枝払いを行い、次に伐倒するための準備作業に取り掛った。

二十cm程から四十cm程度のアベマキを含め四本程伐倒し、玉切り枝払いを行いこの日の作業を終了した。

二日目、ヒノキ林に近い箇所のアベマキは樹高がかなりあるため後日とし、令和五年度に残した隣接地の三十cm程のサクラ、アベマキ、ヒノキ等の伐倒に移った。サクラ、ヒノキ、アベマキ各一本を伐倒、玉切り枝払いを行い二日目の作業を終了した。

三日目、残っているヒノキ、アベマキ、周囲の低木を伐倒、玉切り枝払いを行い、今回の伐倒作業は一旦終了とし、次回からは集積作業ということで、はしご等の機材の撤収を行い終了とした。

十二月九日（火） 六名

十日（水） 七名

十一日（木） 四名

先週までに伐倒した薪炭材の集積作

業を行った。

集積箇所の斜面上部までチルホールで横引きし、集積箇所へ転がり落とす段取りである。

思惑通り転がり落ちてくれる材は少なく、斜面上の低木の切り株等に引っ掛かり止まってしまう材が多く、鳶口等により人力で何とか集積箇所へ落とし込んだ。

二日目も同様に転がり落とす作業と、原木等の仕分け作業を行った。

午後からロープウインチを使用し、少し奥のほうの材を引き出し、同様に転がり落とし集積した。

三日目、引き続きロープウインチによる集積作業を行った。

隣接地の材は若干引き上げの作業となり、ウインチも喘ぎ気味であった。

今回は集積箇所の検討をすることにして今回の作業を終了した。

お知らせ

《お詫び》

市民門松づくりイベント中止

令和7年12月21日（日）開催予定の市民門松づくりイベントは、開催場所の本町公園の車乗り入れが本年より地元の要請により禁止され、材料搬入のための車並びに参加者の車駐車ができなくなり、急遽中止となりました。またドンドも中止となりました。

次回からは場所を変更し、実施したいと考えています。

《訃報》

竹腰 明理事（83）が令和7年12月17日お亡くなりになりました。同年10月に自宅で転倒して入院され、一時は回復の兆しもあったようですが、その後、家族の皆さんの看護の甲斐もなく、お亡くなりになりました。

「はっぱっぱ」では大変活躍をして頂き感謝しております。

ご冥福をお祈りします。

【定例作業日誌】

森林資源活用部 伊藤 守

薪材の伐倒・集材作業

十一月・十二月の定例作業は、もりづくり部の協力で薪材の元となるナラ材の伐倒・集材作業でした。

伐倒された木々は玉切り、枝はシイタケ原木・炭材と仕分けされ土場に集められた

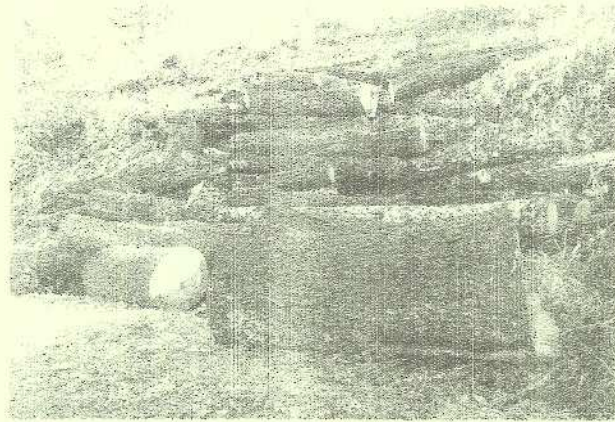
倒木更新

植物は気候の変化に敏感な様で、最低気温が氷点下近くなり、我が家の庭のヤマボウシ・サンシュユも葉を全て落とした。サンシュユの赤い実がひととき目立つ様になりこれらの木々の来年咲く花芽が良くわかる様になった。

先日植物の生きる力をまざまざと観察した。十月十九日、森作り・間伐体験会の会場で伐倒されたヒノキの上にヒノキの稚樹が一列に並んで生育しているのを見、これも「倒木更新」ではと思った。

最近読んだ本、北海道富良野の原生林での動植物を記載した『生けるもののふるさと森林』の中に倒木更新の事が書かれていた。

倒木更新とは、老衰した巨木が、突風や強風にあおられ倒れた後に新たな木が育つ自然現象で、針葉樹林に見られる。倒木により周りに空間が出来、陽が差し種が発芽しやすくなる。そして十年もすると材部が腐り



土場に集積されたのは、アベマキ・クヌギ・コナラで、一番太かったのはクヌギの70cmほどでした。



ヒノキの上にヒノキ。間伐したヒノキの窪みに溜まった水や落ち葉を利用して育って居る。生育していくだろうか？

出し、表面にはコケが生え、腐朽した材部からは養分が供給され、土壌細菌から守られ、発芽・生育の恰好の苗床となる。倒木更新は森林の世代交代を支える重要なプロセスです。「根上がり」も倒木更新によって出来たものです。

間伐体験会のヒノキ林の林床は、笹に覆われ地上には陽が差さず、間伐による空間が出来、倒木の上に実生苗が生育したものです。

苗木城築城500年祭プレ祭り出店

来店者 多数

スタッフ3名

河合博臣

2025年11月16日(日)に岐阜県中津川市苗木の木曽川沿いの山城 国史跡「苗木城跡」が2026年・築城500年を迎えることから、城跡周辺でプレイベントが開催されました。

このイベントに家族で楽しめる「ひょうたん灯かりづくり、モザイクタイルメダルづくり、花成の紹介」のなどで出店しました。

「作り方の紹介」

お祭りの帰りに多くの家族連れの方たちが千成ひょうたんのランプやリョウブ丸太の板材に、タイルを張りアクリル絵の具で色付け及びドングリで飾り付けをしました。作業時間は30分ほどでしたが仕上りに満足的笑顔がとてかわいく素敵でした。

「ひょうたん灯かり」

ひょうたん灯かり等は、家族で、子供が楽しんで作れることを目的としました。

千成ひょうたんを

収穫・種を取り除きひょうたん完成。灯かりの穴あけは釘の太さ3種類で灯かり用の穴を開け、用意した台座と光源ラン



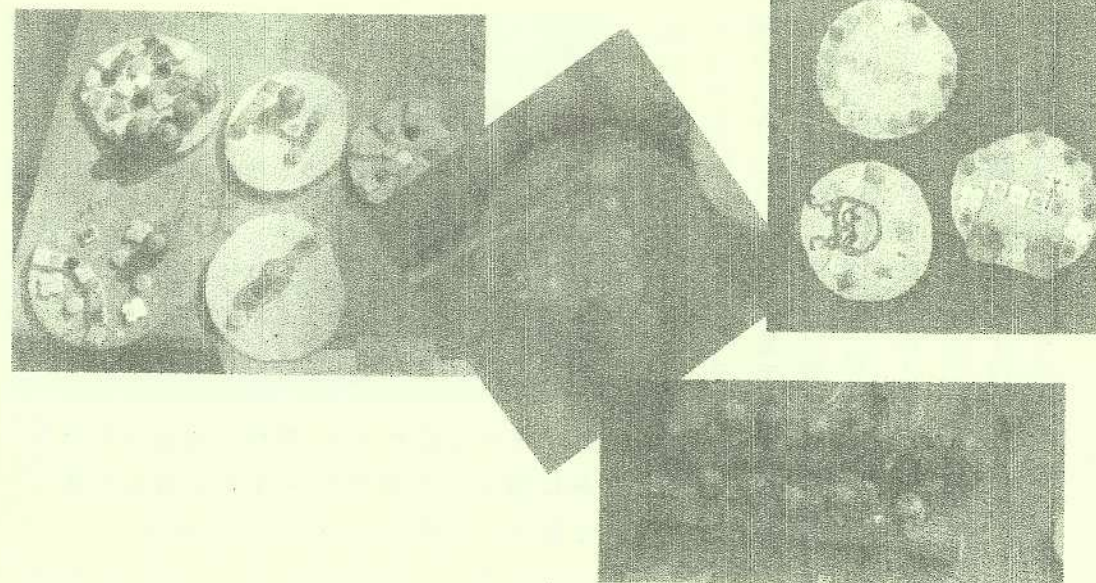
プで楽しめました。

リョウブ丸太板の細工と木の実細工

丸太板にモザイクタイルを木工ボンドで模様や文字を張り付け、ドングリ等木の実で飾ればかわいい表札・コースターに早変わり、紐を通せばメダルとなりました。子供の発想は素晴らしい斬新でかわいく出来上がりでした。お絵描きはクリスマスツリーに飾るようお母さんの作品です。また、ドングリの小人たちは南天の枝(難を転ずる)に整列しています。園児から高学年とお母さんまで楽しめます。

「炭づくり」

100金のカンカンに木の枝、木の実、マツボックリ等入れ、蓋に穴を3×5箇所開け、針金等でふたが飛ばないように縛ります。そのカンカンを家庭にあるカセットコンロで約30分から60分程度焼き、煙が少なく、持って軽くなったら炭の出来上がりです。ふたを開けて炭になっていないなら同じ作業を続けます。出来上がった炭を小皿や竹筒等に入れて玄関の飾り、また、トイレや下駄箱などの消臭に使えますので挑戦してみてください。



《リレー投稿》

わたし専用の紅葉スポット

正木 宏之

いつの頃からか、紅葉時期にひととき新鮮やかに色づくモミジに心が惹かれるようになった。わが家は周囲を雑木林に囲まれているので、紅葉時期になると林のなかにモミジの幼木(1メートル弱)がポツポツと生えていて、小さいながらも色づき紅葉の仲間入りをしているのを見つけやすい。

小さなものは20センチから、多くは樹高50〜60センチのものが多く、それでも1メートルくらいに成長したモミジもある。そんな小さなモミジを毎年何本か掘り起こしてわが家の敷地に定植させている。掘り起こす際には、根を傷つけないよう幼木の周りを広く深く掘るようにしている。特に、ある程度成長している木は根も太いので傷つけないよう慎重に掘り出す。定植させると、こちらの勝手な都合で移植させられたモミジの幼木たちにせめて

ものお詫びにとたっぶりの水と腐葉土をかけてやる。野生のモミジは強いのか、移植させられてもほとんど枯れることなく定着する。1メートルを超す程に成長してくると安定してくるが、50センチ未満の幼木期は鹿か兎に若葉を食べられたり、イノシシに踏み倒されたりの被害があるが、それでも野生のモミジは強い。枯れずに若芽が出て可愛らしいみどりの葉を繁らせる。

気がつく、こうして雑木林から掘り起こされたわが家の敷地内に移植させられたモミジは数えてみると、ざっと70本を超える数となった。まだすべてが成木(3〜5メートルくらい)になっている訳ではないが、それでも紅葉時期には一斉に紅葉し始めるのを見て回るだけで心がわくわくして、自然と外にいた時間が長くなる。小さいながらも赤く色鮮やかに紅葉していると、「ありがたい、頑張ってるね」と思わず声が出る。

太陽と雨水を受けるだけで毎年こんな鮮やかな紅葉を見せてくれるモミジ

たち。1本1本個性があって微妙に色づきが違っている。深い赤(紅)もあれば、紫が混じった紅や黄色が葉の先端に出ていたり、木1本丸ごと黄色であったり、枝の元の方と先端部分で色づきが変わっていることもある。定植した場所や太陽光線の当たり具合や土の変化、水はけの環境等で木の個性が作られそれが紅葉時に木々の色づきの変化として現れるのだらう。家を一歩出ると紅葉が見られる。私専用の紅葉スポットである。

名古屋市に住む娘は「お父さんは贅沢な時間を持ってるね、目の前に紅葉スポットがあるなんて」と羨ましがられている。私は紅葉時期にライトアップするつもりもないし、スマホに撮ってあっちこっち情報をながすつもりもない。自分だけの紅葉にしておきたい。



[illegible]

文・書 太田光昭

2026年 2 月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
1 日	日	13 : 30	役員会	事務所	担当・役員	
8 日	日	9 : 30	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
10 日	火	9 : 30	定例作業日	雑木林	会員・一般	
16 日	月	9 : 30	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
18 日	水	13 : 30	編集会議	事務所	会員・一般	
22 日	日	9 : 30	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
24 日	火	9 : 30	定例作業日	雑木林	会員・一般	
25 日	水	13 : 30	企画会議・通信発行	事務所	担当・役員	

3 月 イ ベ ン ト と 森 の 学 校 の 予 告

	行事内容	会場	備考

編集部連絡: 原稿締切は毎月20日です。
 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。
 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連ある
 ご意見などをお寄せください。
 関係の深い記事など通信に記載します。
 イラストなどもお寄せください。

発行責任者: NPO法人恵那山みどりの会
 理事長 河内 龍二
 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13
 (TEL・FAX 0573-65-1366)
 13:00~16:00(月・土・日・祭日休み)
 メールアドレス: midorinokai@wine.ocn.ne.jp